

1.3 全面広告

(第3種郵便物認可)

大分合同新聞 (毎月1日)

2018年(平成30年)6月22日

金曜日

「食育のスズメ」—— 食べる力は、生きる力。

食育活動は県内各地に広がっている。中でも「子ども食堂」は、栄養だけでなく共に食べる場の提供や、地域活性化などの効果も期待され、取り組む地域が増えている。このページでは、子ども食堂の様子やおおいた食育人材バンクについて紹介する。



泥で遊ぶ子どもたち。背景には田舎の風景。

田んぼに子どもたちの歓声
梅雨の晴れ間、豊後大野市三重町の田んぼに明るい歌声が上った。「あかちゃんがうらやまな足が埋まっちゃう」の主は、10歳の子供たち。食育の子供たち約20人、地域の大人や保護者が手伝って、田んぼに足跡を残す。

子ども食堂



楽しく 体験を重ねる



地域の人が心を込めて調理。



栄養と愛情たっぷりのメニュー。

孤食の解消や食料支援など、食育の目的は、人によって異なる。子ども食堂は、家庭で十分な食事をとることができない子どもへの支援だけでなく、居場所づくりや欠食の補充、共働き世帯の食生活の改善など、子どもを育てる上で、食育をテーマに取り組んでいるところもある。5月末現在、県で把握している子

生田園家庭だけでなく、孤食の解消や食料支援など、食育の目的は、人によって異なる。子ども食堂は、家庭で十分な食事をとることができない子どもへの支援だけでなく、居場所づくりや欠食の補充、共働き世帯の食生活の改善など、子どもを育てる上で、食育をテーマに取り組んでいるところもある。5月末現在、県で把握している子

次世代へ食の知識を伝える
農林水産省は昨年、全国の子ども食堂を対象にアンケートを実施。活動の目的として意識していることとして割合が最も大きかったのは、多様な子どもたちの居場所づくりと、食育や食文化の普及を伝えること(73.4%)。高齢者や障がい者を含む多様な地域の人との共食の場の提供(69.0%)、約7割が食育の場としても意識していた(74.1%)。



みんなで楽しく食事を囲む。

おおいた食育人材バンク

公民館や学校に講師派遣

暮らしの中でも大切な部分を占める「食」。食は料理や栄養だけでなく、生産や環境など、さまざまな分野に関わっている。食に関する理解を深め、食育の重要性を認識し、食育活動を行う。【おおいた食育人材バンク派遣事業】は、県内の公民館、保育所や学校などの希望に応じ、食育に関する講師を派遣する事業。おおいた食育人材バンクには現在90の個人、団体登録しており、派遣の内容も多岐にわたる。例えば、バランスのよい食事、郷土料理やエコクッキングをテーマにした料理教室、農産物の生産体験など、おおいた食育人材バンクの登録者は県のホームページに掲載されている。申請の条件や方法についての問い合わせは県食育・生活衛生課の安心・食育推進課(TEL097-506-3058)へ。



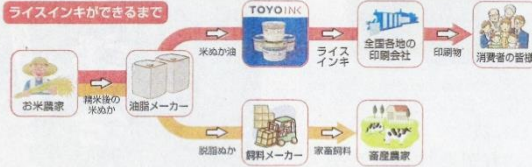
保育園での食育活動。



TOYOINK GROUP

お米で彩る。

日本人の主食であるお米は、他の穀物とはちがひ、ほぼ100%を国内で自給できる穀物です。そのお米を精米したときに取り除かれる「米ぬか」は、アミノ酸やビタミン、油脂を豊富に含んでいます。東洋インキグループは、この「米ぬか」を搾って抽出した「米ぬか油」に着目、石油系溶剤の代わりに「米ぬか油」を使用したオフセット印刷用のライスイキを開発しました。石油系溶剤である石油の使用量を削減することはもちろん、大量の輸入穀物とちがひ、国内で調達できる「米ぬか油」を使用することで、原材料の輸送にかかるCO2も削減します。また、搾油後の「脱脂ぬか」は畜産飼料として利用されています。従来の廃棄されていた「米ぬか」から生まれたライスイキ、みなさんの身のまわりにも、お米由来のインキで印刷された印刷物があるかもしれません。私たち東洋インキグループは、アイデアとモノづくりの力で、人々の暮らしを豊かに彩ります。



毎日新聞 平成30年6月22日

「育ドル娘」ら局長賞受賞

別府大短期大学部25人と卒業生



「育ドル娘」のステージの様子。歌詞は学生らが考案している＝別府大短期大学部提供

農水省の食育活動表彰

別府大短期大学部食
物栄養科の学生25人
つくる地元アイドル
グループ「育ドル娘」と
その卒業生で結成した
「育ドルDream」
が、農林水産省の食育
活動表彰で、消費・安
全局長賞を受賞した。
食育推進全国大会会
場のJCOMホルトホー
ル（大分市）で23日、
表彰式が行われる。食
育の推進活動に貢献し

た団体をたたえるも
の。育ドル娘は201
0年に結成され、「歌
とダンスで食育を」を
キャッチフレーズに、
食中毒予防、「一汁三
菜」の推奨を訴えてき
た。県内の小学校や農
業祭り、年間約80回
のステージをこなす。
現在は8、9代目が活
動中だ。

昨年まで育ドル娘に
参加し、今も育ドルD
reamとして活動す

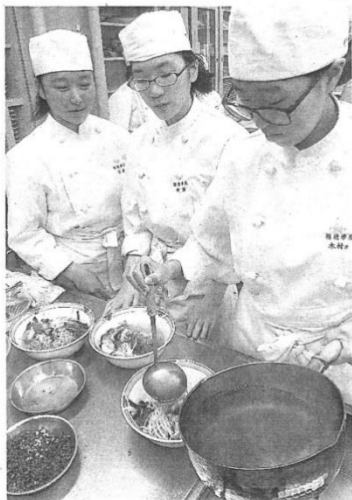
る大坪愛美さん(20)は
「ステージを重ね、知
識を伝えるためのコミ
ュニケーション力がつ
いたと思う。現在、栄
養士の仕事にも役立っ
ている」と話している。

【白川徹】

朝日新聞 平成30年6月23日

高校生 減塩ラーメン一丁

福德学院高 きょう大分駅前で販売



ダシの効いたスープが決め
手の「うま塩ラーメン」
野菜やかつお節でと
ったダシをこす生徒



ダシをしっかり効かせることで塩分を市販商品
の3分の1に抑えたラーメンを、大分市の福德学
院高校健康調理科の3年生たちがつくった。名付
けて「うま塩ラーメン」。23日に同市である「第
13回食育推進全国大会」の一環として、JRR大分
駅府内中央口広場で販売される。

自慢の麺 召し上がれ

スープに食塩不使用 ダシ・薬味効かせ

ラーメンは同科の昨年の3年
生たちが考案した「うま塩ラ
ーメン」を改良。鶏ガラや煮干
し、かつお節、野菜でしっかり
ダシをとり、ニンニク、ショウ
ガ、唐辛子を効かせることで塩
分が少なくても満足できるスー
プに仕上げた。

食塩は使わず、塩分は素材や
めんに含まれるものだけで1杯
1.9g。市販のしょうゆ味の
袋ラーメンでは5.8gで、大
幅に抑えたことが分かる。

「大人なら3割カット程度で
も「減塩」だが、固定観念がな
い高校生たちは、さらに大幅に
減らす工夫をしてくれた」と吉
良亜希子教諭(40)。試作・試食
した3年生の河野華杏さん(18)
は「脂っこいのであんまりメ
ンは食べないが、これはあっさ
りして食べやすい」と話した。

23日は1杯400円で200食
を販売する。

大会は県内では初開催。全国
の食育関係者が集まり、県内の
学校では高校8校、専門学校2
校、大学・短大4校が研究成果
を発表したり、料理を出したり
する。

決め手のスープをどっぷりに注ぐ生徒(いずれも
大分市永興の福德学院高校)

(寿柳聡)

毎日新聞 平成30年6月23日

学び 体験し 食べる

きょうから、食育推進全国大会
県内初開催で多彩なイベント

第13回食育推進全国大会(農林水産省、実行委主催)が23、24日、大分市のJ.R.大分駅前などで開かれる。県内では初開催。五輪8大会連続出場のスキージャンプ界のレジェンド、葛西紀明選手や、人気の料理愛好家の平野レミさんの講演のほか、体験しながら食への理解を深めるイベントなどが多数開催される。同大会は、子供や若者への食育を広めるため、全国各地で毎年開催されている。今年の

ジャンプ 葛西選手ら講演も

大分大会には約100団体に参加し、会場は▽J.R.大分駅北口の府内中央口広場▽同駅南口の上野の森口広場の三つのゾーンに分か

れ、シイタケのこま打ち体験や、子牛や活魚との触れあいや、ど子供も楽しめるイベントが目白押し。地元高校生らが考案した料理の販売もある。

講演は、葛西選手が23日午後2時から、平野さんは24日午後1時45分から、いずれもJ.COMホール大分。入場は無料。詳細は県ホームページなどに掲載している。

【尾形有菜】

第13回食育推進全国大会 in おおいた

みんなでかたろう！食育のすすめ。〜うまい！楽しい！元気な大分〜

日程
6/23(土) 10:00~17:00
6/24(日) 10:00~16:00

入場無料

会場
J.COMホール大分

講演者
平野レミ
葛西紀明

毎日新聞 平成30年6月24日

大分で食育推進全国大会 食や健康 97ブースで出展

食育月間の6月に合わせて「第13回食育推進全国大会」が23日、大分市金池南のJ.COM ホール大分やJ.R.大分駅周辺で始まった。NPOや企業などが食や健康に関する97のブースを出展。講演会や体験ブースをはじめとしたさまざまなイベントが開催され、親子連れなどでにぎわった。24日まで。

同大会は、食育の大切さを広く理解してもらうと毎年、農林水産省などが全国各地で開いてい

きょうまで 多彩なイベント

る。県内では初開催。

東京都中央区にある県アンテナショップのレストラン「坐来・大分」は、県産食材を使った料理の実演教室を開いた。安心院淳・総料理長が福沢諭吉の献立を参考にスッポンを使ったカレーを振るまい、竹田市から来た主婦(72)は「歴史を感じる。体がぽかぽかする」と絶賛。体験ブースでは、子供たちが珍しそうにドジョウに触ったり、笑顔で乳牛をなでたりしていた。

県食生活改善推進協議会は、きらすめしや鶏めしなど郷土料理のレシピを紹介した冊子を配布。「食文化の伝承も食育の一環。県独自の料理に親しんでほしい」と大分料理をPRした。問い合わせは大会事務局092・751・2633。【白川徹】



大分市金池南のJ.COMホール大分で、子供たちが乳牛に触れ、餌をあげる様子。写真提供：大分県農業振興局

大分合同新聞 平成30年6月24日

「食」考える2日間

大分市 全国大会始まる



⑤にぎわう食べ物ブース＝23日、J R大分駅府内中央口広場⑥講演する葛西紀明選手＝J C O Mホルトホール大分



体に気を使いながら精進している。50歳でも頑張る姿を見せたい」と話した。ホルトホールやJ R大分

駅周辺では、県内外の団体が地元の食材や調味料をPRするブースを出展。鳥天、ごまだしうどんなど郷土料理の飲食コーナーは多くの家族連れでにぎわった。給食や栄養バランスに関する講習会、男性の料理教室や「つてみませんか！おとう飯」もあった。

24日は料理研究家の平野レミさんのトークショーや日本の食文化に関するシンポジウムがある。

食生活や食文化の大切さを考える「食育推進全国大会」が23日、大分市のJ C O Mホルトホール大分などで始まった。シンポジウムや料理教室、栄養相談など「食」や「健康」に関わるさまざまなイベントが開かれている。

農林水産省や県などが主催。毎年全国各地で開かれており、今回のテーマは「みんななかたろう食育のすずめうまい！楽しい！元気な時」。

食生活に関する「普段は妻がバランスの整った料理を作ってくれる。海外遠征時は五大栄養素を意識し、

読売新聞 平成30年6月24日



子牛にミルクを飲ませる子ども

食育推進大会
大分で始まる

6月の「食育月間」にちなんで開かれており、県内での開催は初めて。会場には子牛への授乳体験など、食育に関する計約100のブースが設けられ、多くの家族連れでにぎわった。同市「第13回食育推進全国大会」（農林水産省など）が23日、大分市のJ C O Mホルトホール大分などで市内4会場が始まった。24日まで。

24日には、食育をテーマにした劇や講演会なども行われる予定。

地で行かれており、県内での開催は初めて。会場には子牛への授乳体験など、食育に関する計約100のブースが設けられ、多くの家族連れでにぎわった。同市「第13回食育推進全国大会」（農林水産省など）が23日、大分市のJ C O Mホルトホール大分などで市内4会場が始まった。24日まで。

朝日新聞 平成30年6月25日

抹茶づくりや魚の手づかみ

食育推進全国大会 大分駅前で開催



重い茶うすを力を合わせて回して抹茶をつくる姉妹＝大分市のJR大分駅上野の森口広場

「食育推進全国大会inおおいた」にあわせ、大分市のJR大分駅前の広場には食に関する様々なブースが設けられ、最終日の24日も多くの来場者でにぎわっ

た。日本茶インストラクター協会らによるブースではお茶の飲み比べ体験などがあつた。飲み比べは「釜煎り茶」「煎茶」「蒸し製玉緑茶」

大分の食に親しむ

の3種。使われたのは県茶品評会で各部門の1位を獲得した生産者の茶葉で、来場者は好みにあつた茶葉をお土産にもらつていた。

竹田市の村上璃奈さん(8)、夢杏さん(5)姉妹は抹茶づくりに挑戦。重い茶

うすを力を合わせて回した。ひきたての抹茶の粉を味わった璃奈さんは、「苦かった」と言いながらも笑顔をみせた。

県漁業協同組合のブースでは、カワハギなどの魚や貝を入れたフールが人気。子どもたちは身を乗り出し

て魚を捕まえては、歓声をあげていた。(寿柳聡)

日本農業新聞 平成30年6月24日

食や農に関心を

大分で食育推進全国大会

【大分】農水省や大分県などは23日、食育に関する理解を深めてもらおうと、大分市で食育推進全国大会を開いた。食に関わる県内外の約140

団体・企業が出展。多くの来場者が講演会や郷土料理の試食などを楽しんだ。JAグループも農産物を販売した。大会は24日まで。2日間で2万人

の来場を見込む。農水省の磯崎陽輔副大臣は開会式で、「日々の生活は、食に携わるさまざまな人に支えられている。楽しみながら食に関

心を持つてほしい」とあいさつした。

会場では、JAが農産物の販売や農機の試乗などを催した。24日にはJAグループ大分として、炊飯した県産ブランド米「つや姫」と県産農畜産物を使ったカレーを約300人分振る舞う。JAおおいたも同日、ニラやミツバ、大葉など野菜のセツトや、大分市産のピワを使ったクレープを販売する。県産農産物を紹介するパネルも展示する。

来場者は「おいしい食べ物を作ることがどんなに大変か学んだ。食育の重要性が伝わった」と話した。

同大会は、食育推進運動を重点的に展開する6月の「食育月間」に合わせたイベント。2日目は農水省による「私たちの食卓に生きる 明治150年史」と題したシンポジウムなどを予定する。